

歯科放射線学

《履修上の留意事項》遅刻をしない。

講義中は不要な私語を慎む。講義中はスマートフォンや携帯電話を使用しない。他の科目の作業をしない。配付した講義資料は紛失しないようにし、項目ごとにバインダーなどに綴じて整理しておき、試験対策やCBT対策に有効に利用する。

《担当者名》 教授 / 川島 雄介 kawashima-y@ 講師 / 中谷 温紀 nakatani@ 助教 / 杉浦 一考 sugi@

【概要】

歯科医療を行う上で必要な電離放射線の生体への影響、防護の原理と実際、各種画像検査及び画像診断に関する基礎的及び臨床的知識を学ぶ。

【学修目標】

一般目標

歯科医療を行う上で必要な電離放射線による被曝防護と画像検査及び画像診断ができるために、電離放射線の性質生体への影響、防護の原理と実際、各種画像検査及び画像診断に関する基礎的及び臨床的知識を身につける。

行動目標

電離放射線を含む画像検査の種類と特徴、及びその利用法を説明する。

電離放射線を含む画像検査による正常画像解剖を説明する。

各種画像検査を利用した疾患の基本的な画像所見、画像診断と鑑別診断を説明する。

電離放射線の生物学的作用、人体に対する影響と放射線防護の基本理念、および具体的な防護方法を説明する。

IVRと内視鏡検査の基本概念、具体的な利用方法を説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	核医学検査の臨床	核医学検査法の適応疾患を理解している。	川島 雄介 中谷 温紀 杉浦 一考
2) 3	放射線生物学	放射線の人体(胎児を含む)への影響の特徴(急性影響と晩発影響等)を理解している。	川島 雄介 中谷 温紀 杉浦 一考
4) 5	放射線防護・管理学	放射線防護の基準と方法を理解している(医療放射線安全管理責任者の内容を含む)。	川島 雄介 中谷 温紀 杉浦 一考
6	造影剤と造影検査法-造影剤の種類、適応及び副作用	造影検査法の原理と基本的特徴を理解している。造影剤の種類、適応及び副作用を理解している。	川島 雄介 中谷 温紀 杉浦 一考
7	歯の疾患	歯髄・根尖病変、歯周疾患、歯の異常の画像診断について理解している。	川島 雄介 中谷 温紀 杉浦 一考
8) 12	顎骨の歯源性嚢胞、非歯源性嚢胞 口腔顎顔面軟組織に発生する嚢胞	口腔、顎顔面領域、下顎骨に発生する嚢胞の種類、特徴および画像診断を理解している。	川島 雄介 中谷 温紀 杉浦 一考
13	上顎骨および上顎洞疾患	上顎骨および上顎洞に発生する嚢胞の種類、特徴および画像診断を理解している。	川島 雄介 中谷 温紀 杉浦 一考
14) 15	軟組織に発生する良性腫瘍	口腔、顎顔面領域に発生する良性腫瘍の画像診断を理解している。	川島 雄介 中谷 温紀 杉浦 一考
16) 18	口腔、顎顔面領域に発生する悪性腫瘍	口腔、顎顔面領域の悪性腫瘍の画像診断を理解している。	川島 雄介 中谷 温紀 杉浦 一考

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
19) 21	唾液腺疾患	唾石症、唾液腺炎、唾液腺腫瘍、嚢胞、腫瘍類似疾患、ウイルス性唾液腺炎およびシェーグレン症候群(SS)の特徴、画像診断を理解している。	川島 雄介 中谷 温紀 杉浦 一考
22	顎骨および口腔顎顔面領域の炎症	骨髄炎、薬剤関連顎骨疾患、放射線性骨髄炎、蜂窩織炎、膿瘍の画像診断を理解している。 歯性感染の顎骨周囲軟組織への進展を理解している。 顎部間隙を理解している。	川島 雄介 中谷 温紀 杉浦 一考
23	顎骨に異常をきたす主として全身に関連する疾患	口腔、顎顔面領域に症状を現す症候群の種類および画像診断を理解している。	川島 雄介 中谷 温紀 杉浦 一考
24) 25	顎関節疾患 画像検査法と画像解剖 顎関節外傷、腫瘍性病変、顎関節症	顎関節疾患の分類、特徴および画像診断を理解している。	川島 雄介 中谷 温紀 杉浦 一考
26	歯と顎骨の外傷	歯の外傷と顎顔面骨折の画像診断を理解している。	川島 雄介 中谷 温紀 杉浦 一考
27) 30	悪性腫瘍に対する放射線治療 口腔、顎顔面領域のInterventional Radiology	放射線腫瘍学、放射線治療の原理、治療法、放射線治療の口腔管理、口腔、顎顔面領域のInterventional Radiologyを理解する。	川島 雄介 中谷 温紀 杉浦 一考

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

前後期とも定期試験（筆記試験）（100％）で通年評価も定期試験（筆記試験）（100％）。

〔判定法〕前期評価（50％）、後期評価（50％）とし、通年評価は前期後期とも60点以上の評価点になれば合格とする。

【教科書】

「歯科放射線学 第7版」医歯薬出版

Case Based Review 画像診断に強くなる 顎口腔領域の疾患 読影ポイントから病理診断、治療方針まで 永末書店（デジタル教科書）

知っておきたい顎・歯・口腔の画像診断（デジタル教科書） 学研メディカル秀潤社

【参考書】

「歯科放射線学 第6版」医歯薬出版

「カラーアトラス サクシント口腔外科学 第4版」学建書院

各講義時間に配布する講義スライドのハンドアウト

【備考】

1．講義資料の配布、学習課題の提示

事前に配布するので、実習日には必ず持参する。

事前課題レポートは実習日の指定された提出日に遅滞なく提出する。

2．講義に対する学生相互の意見交換やグループ学習の実践

学生相互の意見交換を目的にGoogle Classroomを活用する。

【学修の準備】

講義内容に該当する指定教科書の部分を事前に読む（各講義に予習30分）。

前期と後期にそれぞれ1回の確認テストが講義中に実施されるので、テスト範囲の講義録を復習する（各講義に復習30分）。

【講義の復習】

講義中に学習内容の理解の深化をはかるfeed backを行うので積極的に討議に参加する。

毎回の講義プリントはテーマごとに整理して保管し、講義内容を最低30分は復習する。

疑問点は別のノートに書き出し、教科書やネット検索で調べて理解したことを簡潔に記載する。

【ディプロマ・ポリシーとの関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。

(専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力)

DP 2. 「総合的に患者・生活者を支える歯科医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。

(総合的に患者・生活者をみる姿勢、プロフェッショナルリズム、コミュニケーション能力)

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。

(科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢)

DP 4. 多職種 (保健、医療、福祉、介護) と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。

(多職種連携能力)

DP 5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。

(社会における医療の役割の理解)

【実務経験】

川島 雄介 (歯科医師)、中谷 温紀 (歯科医師)、杉浦 一考 (歯科医師)

【実務経験を活かした教育内容】

歯科放射線学は、歯・顎・顔面・口腔領域の画像診断を通じて、歯科分野全般の治療方針の決定に寄与する科目であり、学理に立脚した学科教育と実務経験を基盤とした臨床教育で優れた教育成果が期待できる内容となっている。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している